



陶都のまもり

多治見警察署からのお知らせ

多治見警察署 (☎0110)

希望を胸に、信念を背中に 岐阜県警察官募集

令和4年度警察官採用試験

受付期限 8月 5日(金)
第1次試験 9月18日(日)
第2次試験 10月中旬～11月中旬
合格発表 12月上旬
採用予定日 令和5年4月1日
採用人員 A II (男性) 5人程度
A II (女性) 5人程度
B (男性) 45人程度
B (女性) 15人程度

岐阜県警察採用情報▶



多治見警察署 先輩警察官の言葉

警察官という仕事は、県民の生命・身体・財産を守る仕事で、非常にやりがいのある仕事です。

私は、刑事に憧れて警察官を志しましたが、警察の仕事は幅広く、特技が生きることにもたくさんあります。一緒に仕事ができる日を楽しみにしています。

7月11日(月)～20日(水)は
夏の交通安全県民運動

ゆずりあう心で
夏の交通事故防止



ようこそ手話の世界へ

これまでに紹介した手話写真の動画を見ることができます。



福祉課 (内線217)

手話通訳者の体験談

市主催の手話講座を受講して、手話サークルへ入会した私が、手話技術もまだままだの話です。

ベテランのMさんに誘われて、ろう者7人聴者5人計12人の女子組で沖縄旅行へ行きました。沖縄も、ろう者の方と共に2泊3日を過ごすのも初めてでした。拙い手話と身振りで、青い空やきれいな海などを満喫してホテルに到着。食事も済み、全員一部屋に集合してのお楽しみ会。ゲームやクイズ、そしてサプライズはろう者Yさんの「安木節」でした。小道具も準備されていて、それはとても見事な踊りでした。後で手ほどきを受け、皆で踊りました。楽しかった宴会も終わり、各自部屋に戻り眠りについた頃、「ガラガラ・バタンバタン」で目が覚めました。起きてみると「あ～トイレか～」。眠りにつくともまた「ガサガサ・ゴソゴソ」。お土産の整理をしている音でした。「そうか！音のない世界って雑音もないのだ！」。ようやく気付いた夜でした。聞こえない世界を知り、手話サークルと共に過ごして30年になります。

かんたん手話講座

土岐市民の歌から
「ひろがる野辺に」

「ひろがる」



両手を胸の前でにぎり、肘を引くように左右に開く

「野辺(野原)」



左手を伏せて、右から左へ平行に動かす



人権感覚を高め お互いを認め合う 人権尊重のまちづくり

人権のまど

まちづくり推進課 (内線311)

7月30日は「人身取引反対世界デー」です

人身取引(トラフィッキング)とは、性的搾取や強制労働、臓器摘出などの搾取を目的とし、暴力や権力の乱用などにより弱みにつけ込み、人を獲得したり引き渡したりする行為を言います。

人身取引は現代の奴隷制度とも言われ、だまされて他国で売春をさせられる少女や、劣悪な環境下で強制労働に苦しむ少年など、世界各地で起きている重大な人権問題です。また、被害者の多くは子どもや女性です。

国境を超える人身取引では、いずれも「貧しい」国から「豊かな」国へ流れるのが、その典型です。アジアの経済大国である日本は、アジア圏における人身取引の目的

国(受入国)の1つとなっています。

米国国務省の報告によれば、各国政府の人身取引問題に対する取組状況の4段階の格付けにおいて、日本の評価は上から2番目という結果でした。(主要8カ国で評価が1番上でないのは、日本とロシアだけです)

この評価からも分かるように、人身取引は、遠い外国の話ではなく、現代の日本でまさに起きている問題なのです。

あなたの近くで人身取引により苦しんでいる人がいるかもしれません。人身取引を他人事と捉えず、まずは身近な問題として考えてみましょう。

人身取引に関する 情報提供・相談窓口

- ・匿名通報ダイヤル 0120-924-839
- ・入国管理局(外国語対応) 0570-013904
- ・外国人権相談ダイヤル 0570-090911

被害者らしい人を見掛けたり、助けを求められたら、上記や最寄りの警察署に連絡してください。



誰一人取り残さない 安全で安心なやさしいまちを目指して

Re Start 再犯防止の情報をお届けします

まちづくり推進課 (内線311)



▲第72回社会を明るくする運動

社会を明るくする運動

「社会を明るくする運動」は、全ての国民が犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人の更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、安全で明るい地域社会を築くための全国的な運動です。

土岐市においても、土岐保護区保護司会が中心となり、中学生が一日保護司となる街頭啓発活動、小中学生による「社会を明るくする運動作文コンテスト」などが行われます。

また、市内各所に黄色の「のぼり旗」が掲げられます。黄色は幸せ、明るい、大切な人などの意味を持つ色であり、社会を明るくする運動を象徴するのぼり旗となっています。

犯罪の背景には、貧困、いじめ、虐待などさまざまなきっかけがあることが少なくありません。

犯罪という自らの過去と向き合い、生きづらさを抱えながらも生きていく人々たちを、私たちは受け入れ、寄り添うコミュニケーションをつくっていく必要があります。

立ち直りを支援する人たちの活動を応援すること。立ち直りを応援するメッセージをフォロー・拡散すること。立ち直ろうとする人の「生きづらさ」に思いを寄せること。小さなことですが、一人一人にできることが重なり合えば、大きなコミュニケーションが実現していくのではないのでしょうか。

生きづらさを生きていく

Vol.8 7月は「社会を明るくする運動」強調月間です